

実務経験の有る教員等による授業科目一覧

分野	科目名	担当教員	単位数	
人間を探究する分野	体育実技E	三浦 啓子	2	
	体育実技F		2	
日本文化分野	茶道と日本文化（春期）	谷口 剛久	2	
	茶道と日本文化（秋期）		2	
キャリア形成分野	キャリアデザイン1	小川 現樹	2	
	キャリアデザイン2		2	
	キャリアデザイン3		2	
	キャリアプランニング1		2	
	キャリアプランニング2		2	
	キャリア形成論		2	
	ビジネスマナー入門1	佐藤 まみ	2	
	観光と地域創生		辻 千春	2
			小川 現樹	
			藤本 哲司	
鈴木 晶子				
沢田 雅史				
中国語中国文化プログラム	観光中国語	馬 燕	2	
教員養成プログラム	日本古典文学演習D	栗木 智美	2	
	国語科教育法Ⅰ		2	
	国語科教育法Ⅱ		2	
計			32	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春期	なし	2	選択
担当教員			
三浦 啓子			
添付ファイル			

備考	ICT活用 <input type="checkbox"/> ICTを活用する フィールドワーク <input type="checkbox"/> フィールドワーク有 授業担当教員 <input checked="" type="checkbox"/> 実務家教員担当科目
----	---

ディプロマポリシーの到達目標	③ 特定の分野に限定されない広い教養と視野を習得する。
サブタイトル(副題・テーマ)	ヒップホップを中心とした各種ダンスと、その歴史・文化について(1)
履修の要件	特になし
授業の概要と目的	1. 授業の概要：リズムトレーニング・アイソレーション等、基本動作とストレッチ、基本ステップの練習・習得と実践。 2. 授業の目的：ビートに合わせて動くことの楽しさを体感するとともに、日常のストレスを解消し、快適な学生生活を過ごす。 3. 授業の手法：実技中心に行うが、各国の代表的なダンスの歴史と文化についても考える。
事前学習及び事後学習	事前学習：音を楽しみ、リズムに合わせて動くことを楽しむ。(一回につき約2時間) 事後学習：その日のうちに復習。(一回につき約2時間)
学修到達目標	各種ダンスの体得と、その背景についても知識を深める
成績評価の方法と基準	運動の得意・不得意に関わらず、自ら楽しみながら積極的に取り組むこと。 個々の向上を考慮の上での実技(50%) 受講時の取り組み方(50%)
教科書(ISBN)	なし
参考書	なし
授業計画	第1回 イン트로ダクション / リズムトレーニング ストレッチ バランストレーニング 第2回 アップ・ダウン コリオ① リズムトレーニング 第3回 アイソレーション コリオ② リズムトレーニング 第4回 基本ステップA コリオ③ バランストレーニング 第5回 基本ステップ B コリオ④ バランストレーニング 第6回 基本ステップ C コリオ⑤ コアトレーニング 第7回 基本ステップ D コリオ⑥ コアトレーニング 第8回 基本ステップ E アイソレーション コリオ⑦ 第9回 基本ステップ F アイソレーション コリオ⑧ 第10回 ラテンムーブメント 第11回 ラテンムーブメント 第12回 ヒップホップ ① 第13回 ヒップホップ②

	第14回 ヒップホップ③ 第15回 まとめ 定期試験
教育成果の検証	該当事項無し
今後の展望	
受講生へのメッセージ・留意事項	運動部に所属していない多くの一般学生にとっては、体育実技の場が体を動かす有効な時間となる。 様々なダンスを楽しみ、生涯スポーツとしてのひとつの選択肢としてほしい。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋期	なし	2	選択
担当教員			
三浦 啓子			
添付ファイル			

備考	ICT活用 <input type="checkbox"/> ICTを活用する フィールドワーク <input type="checkbox"/> フィールドワーク有 授業担当教員 <input checked="" type="checkbox"/> 実務家教員担当科目
----	---

ディプロマポリシーの到達目標	③ 特定の分野に限定されない広い教養と視野を習得する。
サブタイトル(副題・テーマ)	ヒップホップを中心とした各種ダンスと、その歴史・文化について(2)
履修の要件	特になし
授業の概要と目的	1. 授業の概要： リズムトレーニング・アイソレーション等、基本動作とストレッチ、基本ステップの練習・習得と実践。 2. 授業の目的： ビートを感じて動くことの楽しさを体感するとともに、日常のストレスを解消し、快適な学生生活を過ごす。 3. 授業の手法： 実技中心に行うが、各国の代表的なダンスの歴史と文化についても考える。
事前学習及び事後学習	事前学習：音を楽しみ、リズムに合わせて動くことを楽しむ。(一回につき約2時間) 事後学習：その日のうちに復習。(一回につき約2時間)
学修到達目標	春期の実践能力をさらに向上するとともに、各種ダンスに於ける背景についての知識も深める。
成績評価の方法と基準	運動の得意・不得意に関わらず、自ら楽しみながら積極的に取り組むこと。 個々の向上を考慮の上実技(50%) 受講時の取り組み方(50%)
教科書(ISBN)	なし
参考書	なし
授業計画	第1回 インTRODクシヨン / ストレッチ リズムトレーニング バランストレーニング 第2回 ヒップホップ 第3回 ヒップホップ 第4回 ヒップホップ 第5回 ヒップホップ 第6回 サルサ ベーシックムーブメント 第7回 メレンゲ ベーシックムーブメント 第8回 クンビア ベーシックムーブメント 第9回 和の伝統文化 所作 作法 第10回 和の伝統文化 所作 作法 第11回 フィットネスフラ ベーシックムーブメント 第12回 ヒップホップ コアトレーニング 第13回 ヒップホップ コアトレーニング

	<p>第14回 ヒップホップ コアトレーニング</p> <p>第15回 まとめ 定期試験</p>
教育成果の検証	該当事項なし
今後の展望	
受講生へのメッセージ・留意事項	運動部に所属していない多くの一般学生にとっては、体育実技の場が体を動かす有効な時間となる。様々なダンスを楽しみ、生涯スポーツとしてのひとつの選択肢としてほしい。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春期	なし	2	選択
担当教員			
谷口 剛久			
添付ファイル			

備考	ICT活用 <input type="checkbox"/> ICTを活用する フィールドワーク <input type="checkbox"/> フィールドワーク有 授業担当教員 <input checked="" type="checkbox"/> 実務家教員担当科目
----	---

ディプロマポリシーの到達目標	比較文化的かつ柔軟な発想および多文化共生に必要な教養と視野を習得する。
----------------	-------------------------------------

サブタイトル (副題・テーマ)	利休より伝わるお茶の心を学び、日本人らしさを知る。
-----------------	---------------------------

履修の要件	和室を使用する講義のため、人数制限を設ける（一般学生優先、20名まで）。人数に余裕がある場合は、社会人学生の履修を受け付ける。また、学生が10名を超えるときは、施設の都合上、履修者を3限4限に分けて授業を実施する。
-------	---

授業の概要と目的	授業の概要：日本の伝統文化である茶道を学ぶ。 授業の目的：茶道の知恵と美意識を学ぶことで、「人をもてなす」スキルを身に付ける。 授業の手法：茶室にて実践的に茶道の所作を体験しながら学んでもらう。 座学(国際教室)10回、実技体験5回(茶室) ※座学と実技体験を組み合わせで行う。 ※体験学習の定員は8～10名。(SDの為、出来れば8名)として、学生が10名を超えるときは3限4限に分けて授業を実施。 ※体験学習では、コロナウイルス流行状況が落ち着きを見て、お茶とお菓子を飲食をともなう文化体験も実施したい。その場合、①パーテーションを設置し飛沫対策を実施し、②器物の洗剤洗浄、③手指の消毒を徹底する、④原則、自服(自分でお茶を点て自分で飲む)。 ※菓子と茶を口にに入れる一瞬のみ黙ってマスクを外すことを許し、あとは常時マスク着用。
----------	--

事前学習及び事後学習	事前学習：各授業の前に、茶道に関する文献を講読する。(予習2時間) 事後学習：各授業時に学んだ所作を復習する。(復習2時間)
------------	---

学修到達目標	日本の伝統文化である茶道に対して理解を深め、説明することができる。人への気遣いや美しい立ち居振る舞いを修め、世界に通用する日本人としての教養を高める。
--------	---

成績評価の方法と基準	期末試験(50%)、授業レポートの提出(20%)、授業中の態度発言による平常点(30%)
------------	--

教科書 (ISBN)	表千家監修不審庵文庫編『茶の湯・こころと美』(河原書店) 定価：1800円+税 ISBN978-4761101671
------------	--

参考書	授業時に適宜紹介する。
-----	-------------

授業計画	第1回 座学1「授業の進め方説明」 ※シラバスの確認と注意事項 第2回 座学2「茶道文化入門」 ※茶道とは？茶の湯とは？三千家とは？ 第3回 座学3「喫茶、茶の湯の歴史」 ※茶とは？茶のいろいろ、茶の日本伝来、喫茶のひろがり 第4回 実技体験1「和室のきまり、マナー」 ※和室体験、主客のマナー体験 第5回 座学4「利休の茶の湯、利休の精神・和敬清寂」 ※利休とは？利休のことば、利休の茶会 第6回 実技体験2「抹茶の点て方、飲み方」 ※抹茶を点て飲む。茶道具の使い方とは？ 第7回 座学5「茶の湯空間の創造、茶室と露地」 ※茶室とは？茶室成立の歴史 第8回 実技体験3「主客の心得・気遣い」 ※客をもてなす亭主の動きとは？ 第9回 座学6「もてなしの型と振る舞い、所作の美意識」 ※美しい所作とは？作法と稽古の意味
------	---

	第10回 実技体験4「床の間の掛け物、花と花入」 ※茶室の室礼・装いとは？客をもてなす仕組み 第11回 座学7「茶の湯の道具、その扱いと歴史」 ※道具のみどころとは？道具の取り合わせ 第12回 実技体験5「点前の所作、道具の扱い」 ※おもてなしの心とは？客をもてなす仕組み 第13回 座学8「茶会・茶事もてなしの文化の成立」 ※茶会とは？茶の湯の催事、茶事のいろいろ 第14回 座学9「茶の湯と日本文化、表千家の茶道」 ※利休のわび茶とは？千家の歴史 第15回 座学10「日本人の思考、間(ま)と気遣いの文化とは？」 ※時所位とは？茶道文化まとめ
教育成果の検証	新規開講科目につき該当なし。
今後の展望	新規開講科目につき該当なし。
受講生へのメッセージ・留意事項	授業時・終了後に教室で質問を受け付ける。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋期	なし	2	選択
担当教員			
谷口 剛久			
添付ファイル			

備考	ICT活用 <input type="checkbox"/> ICTを活用する フィールドワーク <input type="checkbox"/> フィールドワーク有 授業担当教員 <input checked="" type="checkbox"/> 実務家教員担当科目
----	---

ディプロマポリシーの到達目標	比較文化的かつ柔軟な発想および多文化共生に必要な教養と視野を習得する。
サブタイトル (副題・テーマ)	利休より伝わるお茶の心を学び、日本人らしさを知る。
履修の要件	和室を使用する講義のため、人数制限を設ける (一般学生優先、20名まで)。人数に余裕がある場合は、社会人学生の履修を受け付ける。また、学生が10名を超えるときは、施設の都合上、履修者を3限4限に分けて授業を実施する。
授業の概要と目的	<p>授業の概要：日本の伝統文化である茶道を学ぶ。 授業の目的：茶道の知恵と美意識を学ぶことで、「人をもてなす」スキルを身に付ける。 授業の手法：茶室にて実践的に茶道の所作を体験しながら学んでもらう。</p> <p>座学(国際教室)10回、実技体験5回(茶室) ※座学と実技体験を組み合わせで行う。 ※体験学習の定員は8～10名。(SDの為、出来れば8名)として、学生が10名を超えるときは3限4限に分けて授業を実施。 ※体験学習では、コロナウイルス流行状況が落ち着きを見て、お茶とお菓子を飲食をともなう文化体験も実施したい。その場合、①パーテーションを設置し飛沫対策を実施し、②器物の洗剤洗浄、③手指の消毒を徹底する、④原則、自服(自分でお茶を点て自分で飲む)。 ※菓子と茶を口にに入れる一瞬のみ黙ってマスクを外すことを許し、あとは常時マスク着用。</p>
事前学習及び事後学習	事前学習：各授業の前に、茶道に関する文献を講読する。(予習2時間) 事後学習：各授業時に学んだ所作を復習する。(復習2時間)
学修到達目標	日本の伝統文化である茶道に対して理解を深め、説明することができる。人への気遣いや美しい立ち居振る舞いを修め、世界に通用する日本人としての教養を高める。
成績評価の方法と基準	期末試験 (50%)、授業レポートの提出 (20%)、授業中の態度発言による平常点 (30%)
教科書 (ISBN)	表千家監修不審庵文庫編『茶の湯・こころと美』 (河原書店) 定価：1800円+税 ISBN978-4761101671
参考書	授業時に適宜紹介する。
授業計画	第1回 座学1「授業の進め方説明」 ※シラバスの確認と注意事項 第2回 座学2「茶道文化入門」 ※茶道とは？茶の湯とは？三千家とは？ 第3回 座学3「喫茶、茶の湯の歴史」 ※茶とは？茶のいろいろ、茶の日本伝来、喫茶のひろがり 第4回 実技体験1「和室のきまり、マナー」 ※和室体験、主客のマナー体験 第5回 座学4「利休の茶の湯、利休の精神・和敬清寂」 ※利休とは？利休のことば、利休の茶会 第6回 実技体験2「抹茶の点て方、飲み方」 ※抹茶を点て飲む。茶道具の使い方とは？ 第7回 座学5「茶の湯空間の創造、茶室と露地」 ※茶室とは？茶室成立の歴史 第8回 実技体験3「主客の心得・気遣い」 ※客をもてなす亭主の動きとは？ 第9回 座学6「もてなしの型と振る舞い、所作の美意識」 ※美しい所作とは？作法と稽古の意味

	第10回 実技体験4「床の間の掛け物、花と花入」 ※茶室の室礼・装いとは？客をもてなす仕組み 第11回 座学7「茶の湯の道具、その扱いと歴史」 ※道具のみどころとは？道具の取り合わせ 第12回 実技体験5「点前の所作、道具の扱い」 ※おもてなしの心とは？客をもてなす仕組み 第13回 座学8「茶会・茶事もてなしの文化の成立」 ※茶会とは？茶の湯の催事、茶事のいろいろ 第14回 座学9「茶の湯と日本文化、表千家の茶道」 ※利休のわび茶とは？千家の歴史 第15回 座学10「日本人の思考、間(ま)と気遣いの文化とは？」 ※時所位とは？茶道文化まとめ
教育成果の検証	新規開講科目につき該当なし。
今後の展望	新規開講科目につき該当なし。
受講生へのメッセージ・留意事項	授業時・終了後に教室で質問を受け付ける。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春期	2年	2	選択
担当教員			
小川現樹			
添付ファイル			

備考	ICT活用 <input type="checkbox"/> ICTを活用する フィールドワーク <input type="checkbox"/> フィールドワーク有 授業担当教員 <input checked="" type="checkbox"/> 実務家教員担当科目
----	---

ディプロマポリシーの到達目標	② 社会人としての基礎的な能力を習得する。
サブタイトル (副題・テーマ)	社会人基礎力の習得と、仕事と自分に対する理解を深め、自身のキャリアをデザインすることを知る。
履修の要件	一般学生2年次【必修科目】です。クラス指定あり (3、4年次の単位未修得者) ※留学生は、「キャリアデザインA」を選択 (クラス指定あり)
授業の概要と目的	1. 授業の概要：社会人基礎力の習得と、仕事と自分に対する理解を深める。キャリアポートフォリオの継続的な活用をする。 2. 授業の目的：就職活動の時期が実質早期化する中で、早期のインターンシップ参加を目指し、3年次から本格化する就職活動を見据えます。 3. 授業の手法：講義形式、グループディスカッション、グループワーク ※月間PDCAシートの提出を課します。 本授業は、企業での人事責任者であった教員が担当することで、より実践的な講義内容となる。
事前学習及び事後学習	事前学習：予習・日々の新聞購読 (2時間) 事後学習：生活に活かす工夫と月間PDCAシート (毎月提出) の継続活用 (2時間)
学修到達目標	キャリアポートフォリオの継続的活用。 社会と自分とのつながりを知り、就職に向けての準備を出来るようになること。
成績評価の方法と基準	期末試験 (30%)、プレゼンテーション (20%)、レポート (20%)、平常点 (30%)
教科書 (ISBN)	授業時に指示いたします
参考書	授業時に指示いたします
授業計画	1 オリエンテーション ・授業のすすめ方とキャリアポートフォリオ・月間PDCA実践シート・Classroom活用について ・キャリアデザインの考え方 2 職業興味と自己理解 ・ジョン・L・ホルランドの「ホランドタイプ」を参考にし、職業興味についての自己理解を進める (復習) ・職業レディネステストを実施し、結果に基づいたグループワークを行う 3 社会に出て働くということを知る ・ジョン・Dクルンボルツの「計画された偶発性」をステイブ・ジョブズの講話から読み解く ・上記を踏まえて、目標設定と働くことについて考える 4 社会人基礎力を理解する ・経済産業省による「社会人基礎力」「新社会人基礎力」を学ぶ ・自身の社会人基礎力を知るためのワークを実施する ・今後の大学生活で、社会人基礎力をいかに高めるかのディスカッションを行う 5 コミュニケーションの重要性を知る ・アルバート・メラビアン「メラビアンの法則」をもとに、コミュニケーションについて考える ・上記を活かしたグループワークを実施する 6 職業選択のあり方を考える ・エドガー・H・シャインの「キャリア・アンカー」を参考に、自身のキャリアにおける不動点について知る ・そのほか様々な職業選択の視点について知る 7 インターンシップについての概説 ・大学生の企業への職業体験 (インターンシップ) の歴史や、考え方を知る ・様々なインターンシップについての内容を知る ・夏以降のインターンシップ参加に向けての準備を行う 8 企業を知る① 企業研究の手法について学ぶことで、インターンシップ参加に向けた準備を行う。

	<p>9 企業を知る② チームプレゼンテーションの準備として、SWOT分析・3P分析等のフレームワークを体験する</p> <p>10 企業を知る③ ・企業調査の結果についてのチームプレゼンテーションを実施する ・フィードバックを通じて、企業研究の進め方を深く知る</p> <p>11 さまざまな職種を理解する ・アルバイト・ボランティア・その他の課業分析を通して、職業についての構造的な知識・理解を深める。 ・自身のアルバイトや課外活動での職務から、職種への理解を深める</p> <p>12 事業企画ワーク① ・これまでの授業の内容を参考にし、自分たちでビジネスを立ち上げることを学ぶ ・グループワークを通じて、新たに事業を計画する</p> <p>13 事業企画ワーク② 事業企画ワーク①で計画した事業について、グループ発表を行う</p> <p>14 ライフプランニングをする カードゲームを通じて、将来のマネープランを考え、ライフプランニングについての重要性を共有する</p> <p>15 総括 ・春学期全体の振り返りと、学びの共有を行う ・夏季休暇の過ごし方と、月間PDCA実践シートの活用について考える</p>
教育成果の検証	<p>オンライン授業の運用についての評価がほとんどとなり、授業の本質に触れたアンケート結果ではありませんでしたが、グループワークやディスカッションの多用、加えて毎回の課題が学生に対してのストレスになったようです。</p> <p>今期も授業内容の性質上グループワークも多様しますが、社会に出れば知ってるメンバーや仲の良いメンバーで仕事を進められることは稀です。この機会に「与えられた環境で、最大限の成果を残す」ためのワークになることを期待します。</p>
今後の展望	<p>みなさんのキャリア形成を考える授業です。</p> <p>個人やグループでのワークを中心に授業展開していますので、積極的に参加いただきたい。</p> <p>相対的に予習と復習の時間が少なくなる科目ですので、本年度はレポートや課題等が増えます。</p> <p>毎月提出のキャリアポートフォリオ（月間PDCAシート）は継続的に活用するようにしてください。</p>
受講生へのメッセージ・留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ e-Mail: ogawa◇abu. ac. jp (◇を@にかえて送信してください) ・ 授業時間外の質問は、オフィスアワーに研究室へ来訪ください。もしくはキャリアセンターでも対応いたします。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春期	2年	2	選択
担当教員			
小川現樹			
添付ファイル			

備考	ICT活用 <input type="checkbox"/> ICTを活用する フィールドワーク <input type="checkbox"/> フィールドワーク有 授業担当教員 <input checked="" type="checkbox"/> 実務家教員担当科目
----	---

ディプロマポリシーの到達目標	② 社会人としての基礎的な能力を習得する。
サブタイトル (副題・テーマ)	社会人基礎力の習得と、仕事と自分に対する理解を深め、自身のキャリアをデザインすることを知る。
履修の要件	一般学生2年次【必修科目】です。クラス指定あり (3、4年次の単位未修得者) ※留学生は、「キャリアデザインA」を選択 (クラス指定あり)
授業の概要と目的	1. 授業の概要：社会人基礎力の習得と、仕事と自分に対する理解を深める。キャリアポートフォリオの継続的な活用をする。 2. 授業の目的：就職活動の時期が実質早期化する中で、早期のインターンシップ参加を目指し、3年次から本格化する就職活動を見据えます。 3. 授業の手法：講義形式、グループディスカッション、グループワーク ※月間PDCAシートの提出を課します。 本授業は、企業での人事責任者であった教員が担当することで、より実践的な講義内容となる。
事前学習及び事後学習	事前学習：予習・日々の新聞購読 (2時間) 事後学習：生活に活かす工夫と月間PDCAシート (毎月提出) の継続活用 (2時間)
学修到達目標	キャリアポートフォリオの継続的活用。 社会と自分とのつながりを知り、就職に向けての準備を出来るようになること。
成績評価の方法と基準	期末試験 (30%)、プレゼンテーション (20%)、レポート (20%)、平常点 (30%)
教科書 (ISBN)	授業時に指示いたします
参考書	授業時に指示いたします
授業計画	1 オリエンテーション ・授業のすすめ方とキャリアポートフォリオ・月間PDCA実践シート・Classroom活用について ・キャリアデザインの考え方 2 職業興味と自己理解 ・ジョン・L・ホルランドの「ホランドタイプ」を参考にし、職業興味についての自己理解を進める (復習) ・職業レディネステストを実施し、結果に基づいたグループワークを行う 3 社会に出て働くということを知る ・ジョン・Dクルンボルツの「計画された偶発性」をステイブ・ジョブズの講話から読み解く ・上記を踏まえて、目標設定と働くことについて考える 4 社会人基礎力を理解する ・経済産業省による「社会人基礎力」「新社会人基礎力」を学ぶ ・自身の社会人基礎力を知るためのワークを実施する ・今後の大学生活で、社会人基礎力をいかに高めるかのディスカッションを行う 5 コミュニケーションの重要性を知る ・アルバート・メラビアンの「メラビアンの法則」をもとに、コミュニケーションについて考える ・上記を活かしたグループワークを実施する 6 職業選択のあり方を考える ・エドガー・H・シャインの「キャリア・アンカー」を参考に、自身のキャリアにおける不動点について知る ・そのほか様々な職業選択の視点について知る 7 インターンシップについての概説 ・大学生の企業への職業体験 (インターンシップ) の歴史や、考え方を知る ・様々なインターンシップについての内容を知る ・夏以降のインターンシップ参加に向けての準備を行う 8 企業を知る① 企業研究の手法について学ぶことで、インターンシップ参加に向けた準備を行う。

	<p>9 企業を知る② チームプレゼンテーションの準備として、SWOT分析・3P分析等のフレームワークを体験する</p> <p>10 企業を知る③ ・企業調査の結果についてのチームプレゼンテーションを実施する ・フィードバックを通じて、企業研究の進め方を深く知る</p> <p>11 さまざまな職種を理解する ・アルバイト・ボランティア・その他の課業分析を通して、職業についての構造的な知識・理解を深める。 ・自身のアルバイトや課外活動での職務から、職種への理解を深める</p> <p>12 事業企画ワーク① ・これまでの授業の内容を参考にし、自分たちでビジネスを立ち上げることを学ぶ ・グループワークを通じて、新たに事業を計画する</p> <p>13 事業企画ワーク② 事業企画ワーク①で計画した事業について、グループ発表を行う</p> <p>14 ライフプランニングをする カードゲームを通じて、将来のマネープランを考え、ライフプランニングについての重要性を共有する</p> <p>15 総括 ・春学期全体の振り返りと、学びの共有を行う ・夏季休暇の過ごし方と、月間PDCA実践シートの活用について考える</p>
教育成果の検証	<p>オンライン授業の運用についての評価がほとんどとなり、授業の本質に触れたアンケート結果ではありませんでしたが、グループワークやディスカッションの多用、加えて毎回の課題が学生に対してのストレスになったようです。</p> <p>今期も授業内容の性質上グループワークも多様しますが、社会に出れば知ってるメンバーや仲の良いメンバーで仕事を進められることは稀です。この機会に「与えられた環境で、最大限の成果を残す」ためのワークになることを期待します。</p>
今後の展望	<p>みなさんのキャリア形成を考える授業です。</p> <p>個人やグループでのワークを中心に授業展開していますので、積極的に参加いただきたい。</p> <p>相対的に予習と復習の時間が少なくなる科目ですので、本年度はレポートや課題等が増えます。</p> <p>毎月提出のキャリアポートフォリオ（月間PDCAシート）は継続的に活用するようにしてください。</p>
受講生へのメッセージ・留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ e-Mail: ogawa◇abu.ac.jp（◇を@にかえて送信してください） ・ 授業時間外の質問は、オフィスアワーに研究室へ来訪ください。もしくはキャリアセンターでも対応いたします。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春期	2年	2	選択
担当教員			
小川現樹			
添付ファイル			

備考	ICT活用 <input type="checkbox"/> ICTを活用する フィールドワーク <input type="checkbox"/> フィールドワーク有 授業担当教員 <input checked="" type="checkbox"/> 実務家教員担当科目
----	---

ディプロマポリシーの到達目標	② 社会人としての基礎的な能力を習得する。
サブタイトル (副題・テーマ)	社会人基礎力の習得と、仕事と自分に対する理解を深め、自身のキャリアをデザインすることを知る。
履修の要件	一般学生2年次【必修科目】です。(クラス分けにより、3、4年時の「キャリアデザイン」「キャリアデザインA」未修得者選択不可) ※留学生は、「キャリアデザインA」を選択(クラス分け)。
授業の概要と目的	1. 授業の概要：社会人基礎力の習得と、仕事と自分に対する理解を深める。キャリアポートフォリオの継続的な活用をする。 2. 授業の目的：就職活動の時期が実質早期化する中で、早期のインターンシップ参加を目指し、3年次から本格化する就職活動を見据えます。 3. 授業の手法：講義形式、グループディスカッション、グループワーク ※月間PDCAシートの提出を課します。 本授業は、企業での人事責任者であった教員が担当することで、より実践的な講義内容となる。
事前学習及び事後学習	事前学習：予習・日々の新聞購読(2時間) 事後学習：生活に活かす工夫と月間PDCAシート(毎月提出)の継続活用(2時間)
学修到達目標	キャリアポートフォリオの継続的活用。 社会と自分とのつながりを知り、就職に向けての準備を出来るようになること。 インターンシップなど企業様との関わり合いの中で、ビジネスの視点を養う。
成績評価の方法と基準	インターンシップの評価(30%)、プレゼンテーション(20%)、レポート(20%)、平常点(30%)
教科書 (ISBN)	授業時に指示いたします
参考書	授業時に指示いたします
授業計画	1 オリエンテーション ・授業のすすめ方とキャリアポートフォリオ・月間PDCA実践シート・Classroom活用について ・キャリアデザインの考え方 2 社会に出て働くということを知る ・ジョン・Dクルンボルツの「計画された偶発性」をステイブ・ジョブズの講話から読み解く ・上記を踏まえて、目標設定と働くことについて考える 3 インターンシップにおけるビジネスマナー インターンシップ参加に向けて、最低限の「服装、往訪マナー、メール・電話のマナー」を学び、実践する。 4 コミュニケーションの重要性を知る ・アルバート・メラビアンの「メラビアンの法則」をもとに、コミュニケーションについて考える ・上記を活かしたグループワークを実施する 5 業界理解(広告業界とは?) リクルートにおける目標設定・課題設定とは?を知る 6 広告はどのように作るのか KPI・KGIとは?事例を参考に考える 7 課題提示・課題研究① グループワークやロールプレイを実施し、インターンシップに向けての準備を行う 8 課題提示・課題研究② 課題探究の内容を踏まえて、企業様にむけての発注を行う 9 プレゼンテーション① 企業様への提案について、プレゼンテーションの準備を行う

	<p>10 プレゼンテーション② 全体へのプレゼンテーションとフィードバックを行う。 次週からのインターンシップに向けての準備を行う</p> <p>11 インターンシップ① 企業様へのインターンシップを実施</p> <p>12 インターンシップ② 企業様へのインターンシップを実施</p> <p>13 インターンシップ③ 企業様へのインターンシップを実施</p> <p>14 インターンシップ④ 企業様へのインターンシップを実施</p> <p>15 最終プレゼンテーション、総括 ・インターンシップに参加してのプレゼンテーションを行う ・全体の振り返り</p>
教育成果の検証	<p>キャリアデザインの他のクラスと比較すると、事前事後学習の時間が大幅に増えているようです。外部講師をお招きしての10コマを実施しましたので、毎回の課題が多く学生にとっては負荷がかかるようでした。</p> <p>半面、ビジネス現場で利用される基本的なフレームワークも学べたことは大きな収穫となったようです。今期は対面での実施を前提としていますので、昨年は実現できなかったインターンシップに向けて前向きに取り組んでいただきたい。</p>
今後の展望	<p>みなさんのキャリア形成を考える授業です。個人やグループでのワークを中心に授業展開していますので、積極的に参加いただきたい。相対的に予習と復習の時間が少なくなる科目ですので、本年度はレポートや課題等が増えます。毎月提出のキャリアポートフォリオ（月間PDCAシート）は継続的に活用するようにしてください。</p>
受講生へのメッセージ・留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ e-Mail: ogawa◇abu.ac.jp (◇を@にかえて送信してください) ・ 授業時間外の質問は、オフィスアワーに研究室へ来訪ください。もしくはキャリアセンターでも対応いたします。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋期	2年	2	選択
担当教員			
小川現樹			
添付ファイル			

備考	ICT活用 <input type="checkbox"/> ICTを活用する フィールドワーク <input type="checkbox"/> フィールドワーク有 授業担当教員 <input checked="" type="checkbox"/> 実務家教員担当科目
----	---

ディプロマポリシーの到達目標	② 社会人としての基礎的な能力を習得する。
サブタイトル (副題・テーマ)	職業観の醸成とキャリアアップ
履修の要件	一般学生2年次 (3、4年次の単位未修得者) ※留学生は、「キャリアデザインB」を選択。
授業の概要と目的	1. 授業の概要：社会人基礎力の習得と、仕事と自分に対する理解を深める。キャリアポートフォリオの継続的な活用をする。 2. 授業の目的：就職活動の時期が実質早期化する中で、早期のインターンシップ参加を目指し、3年次から本格化する就職活動を見据えます。またGoogleClassroomなどのWebツールを積極的に活用し、将来へ向けてのICTリテラシーを高める。 3. 授業の手法：講義形式、グループディスカッション、小テスト ※GoogleClassroomを利用して課題 (毎月の月間PDCAシートなど) の提出を課します。 本授業は、企業での人事責任者であった教員が担当することで、より実践的な講義内容となる。
事前学習及び事後学習	事前学習：予習・日々の新聞購読 (2時間) 事後学習：生活に活かす工夫と月間PDCAシート (毎月提出) の継続活用 (2時間)
学修到達目標	キャリアポートフォリオの継続的活用。 社会人に必要なICTリテラシーの向上。 社会から求められるコミュニケーション力を身につけること。
成績評価の方法と基準	期末試験 (30%)、小テスト・プレゼンテーション (20%)、課題提出 (20%)、平常点 (30%)
教科書 (ISBN)	書籍名：愛知文教大学CAREER GUIDE BOOK 2023 出版社：JSコーポレーション 価格：1,600円 (税込)
参考書	著者名：小川現樹 書籍名：親子のための就職学 出版社：流行発信 価格：1,080円 (税込) ISBN：978-4890402670
授業計画	1 オリエンテーション、前期の振り返り ・授業の進め方、月間PDCA実践シート ・春期の振り返り ・次週からのPBL企画のグループ分けを行います。 2 Project Based Learning① ①企画導入 産業構造の劇的な変化に伴い、重要性が高まっているPBL (問題解決型学習)。 この科目では株式会社マイナビの提供する「課題解決プロジェクト」を活用する。 企業から出された課題に授業内で取り組みます。 https://pbl.mycampus.jp/ 3 自己分析 ・自分の過去の経験を振り返り、現在の自分の長所と短所を探ります ・自己分析をもとに、アピールポイントを見つけ「自己PR」づくりにつなげていきます。 4 Project Based Learning② ②中間発表 (ワークの進捗状況の確認) 産業構造の劇的な変化に伴い、重要性が高まっているPBL (問題解決型学習)。 この科目では株式会社マイナビの提供する「課題解決プロジェクト」を活用する。 企業から出された課題に授業内で取り組みます。 5 自己PR作成 #3で実施した自己分析をもとに「自己PR文」の作成をします。 作成した自己PRは、グループ間でアウトプットし相互にフィードバックします。

	<p>6 インターンシップと業界企業研究の手法 「1日職業体験」等の対応と、インターンシップの概略について振り返ります。 この単元ではおもに情報の集め方や、業種・職種・企業研究についてアプローチします。</p> <p>7 Project Based Learning③ ③グループプレゼンテーション（1グループ7分程度のプレゼンテーションを実施） 産業構造の劇的な変化に伴い、重要性が高まっているPBL（問題解決型学習）。 この科目では株式会社マイナビの提供する「課題解決プロジェクト」を活用する。 企業から出された課題に授業内で取り組みます。</p> <p>8 企業の採用選考手法 企業はなぜ人を採用するのか？ 採用するにはどんな視点で学生を判断しているのか？ 企業側の立場に立って考えるワークを実施します。 また、資料請求（プレエントリー）から採用内定に至るまでのプロセスを洗い出します。</p> <p>9 筆記試験対策① 採用選考の中でも、近年その重要度が増しているのが「筆記試験」です。 筆記試験にはどんなものがあるのか？ その種類と傾向についてお伝えします。</p> <p>10 筆記試験対策② 筆記試験の中で最もメジャーな「SPI3」について解説します。 また中間試験として、SPIの模擬テストを受験いただきます。</p> <p>11 企業へのアプローチ① エントリーとはなんだろう？エントリーシートはいつ出すもの？ エントリーとエントリーシートの概略についてお伝えします。</p> <p>12 企業へのアプローチ② エントリーシートの設問対策をします。 出題傾向によって、どのような回答があるのか。練習問題を通じて学びます。 作成したものはグループ内で共有とフィードバックを行います。</p> <p>13 履歴書作成と進路登録 愛知文教大学指定履歴書の作成と、進路登録票の記載をします。</p> <p>14 さまざまな就職活動について知る 就職活動は画一的なものではなく、いまは非常に多様化しています。 多様化する就職活動の実態とを知り、次年度につなげます。</p> <p>15 総括 これまで2年間の学びの総括と、次年度以降の目標設定について確認します。</p>
教育成果の検証	<p>企業様との共同プロジェクト（Project Based Learning）を始めとしたグループワークでは、皆さんが社会に出てからの必要なスキルを身につけます。能動的な学びが必要となりますので、グループ分けはランダムで実施しましたが、最後まで意図の理解が進まなかったようです。 社会に出れば、知ってるメンバーや仲の良いメンバーで仕事を進められることは稀です。この機会に「与えられた環境で、最大限の成果を残す」ためのワークになることを期待します。</p>
今後の展望	<p>相対的に予習と復習の時間が少なくなる科目ですので、本年度はレポートや課題等が増えます。 企業様とのプロジェクトも実施しますので、前期の学修を踏まえて時間外でもグループ学習を進めること。 毎月提出のキャリアポートフォリオ（月間PDCAシート）は継続的に活用するようにしてください。</p>
受講生へのメッセージ・留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ e-Mail: ogawa◇abu. ac. jp（◇を@にかえて送信してください） ・ 授業時間外の質問は、オフィスアワーに研究室へ来訪ください。もしくはキャリアセンターでも対応いたします。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋期	2年	2	選択
担当教員			
小川現樹			
添付ファイル			

備考	ICT活用 <input type="checkbox"/> ICTを活用する フィールドワーク <input type="checkbox"/> フィールドワーク有 授業担当教員 <input checked="" type="checkbox"/> 実務家教員担当科目
----	---

ディプロマポリシーの到達目標	② 社会人としての基礎的な能力を習得する。
----------------	-----------------------

サブタイトル (副題・テーマ)	職業観の醸成とキャリアアップ
-----------------	----------------

履修の要件	一般学生2年次 (3、4年次の単位未修得者) ※留学生は、「キャリアデザインB」を選択。
-------	---

授業の概要と目的	1. 授業の概要：社会人基礎力の習得と、仕事と自分に対する理解を深める。キャリアポートフォリオの継続的な活用をする。 2. 授業の目的：就職活動の時期が実質早期化する中で、早期のインターンシップ参加を目指し、3年次から本格化する就職活動を見据えます。またGoogleClassroomなどのWebツールを積極的に活用し、将来へ向けてのICTリテラシーを高める。 3. 授業の手法：講義形式、グループディスカッション、小テスト ※GoogleClassroomを利用して課題 (毎月の月間PDCAシートなど) の提出を課します。 本授業は、企業での人事責任者であった教員が担当することで、より実践的な講義内容となる。
----------	---

事前学習及び事後学習	事前学習：予習・日々の新聞購読 (2時間) 事後学習：生活に活かす工夫と月間PDCAシート (毎月提出) の継続活用 (2時間)
------------	---

学修到達目標	キャリアポートフォリオの継続的活用。 社会人に必要なICTリテラシーの向上。 社会から求められるコミュニケーション力を身につけること。
--------	---

成績評価の方法と基準	期末試験 (30%)、小テスト・プレゼンテーション (20%)、課題提出 (20%)、平常点 (30%)
------------	--

教科書 (ISBN)	書籍名：愛知文教大学CAREER GUIDE BOOK 2023 出版社：JSコーポレーション 価格：1,600円 (税込)
------------	--

参考書	著者名：小川現樹 書籍名：親子のための就職学 出版社：流行発信 価格：1,080円 (税込) ISBN：978-4890402670
-----	--

授業計画	1 オリエンテーション、前期の振り返り ・ 授業の進め方、月間PDCA実践シート ・ 春期の振り返り ・ 次週からのPBL企画のグループ分けを行います。 2 Project Based Learning① ①企画導入 産業構造の劇的な変化に伴い、重要性が高まっているPBL (問題解決型学習)。 この科目では株式会社マイナビの提供する「課題解決プロジェクト」を活用する。 企業から出された課題に授業内で取り組みます。 https://pbl.mycampus.jp/ 3 自己分析 ・ 自分の過去の経験を振り返り、現在の自分の長所と短所を探ります ・ 自己分析をもとに、アピールポイントを見つけ「自己PR」づくりにつなげていきます。 4 Project Based Learning② ②中間発表 (ワークの進捗状況の確認) 産業構造の劇的な変化に伴い、重要性が高まっているPBL (問題解決型学習)。 この科目では株式会社マイナビの提供する「課題解決プロジェクト」を活用する。 企業から出された課題に授業内で取り組みます。 5 自己PR作成 #3で実施した自己分析をもとに「自己PR文」の作成をします。 作成した自己PRは、グループ間でアウトプットし相互にフィードバックします。
------	---

	<p>6 インターンシップと業界企業研究の手法 「1日職業体験」等の対応と、インターンシップの概略について振り返ります。 この單元ではおもに情報の集め方や、業種・職種・企業研究についてアプローチします。</p> <p>7 Project Based Learning③ ③グループプレゼンテーション（1グループ7分程度のプレゼンテーションを実施） 産業構造の劇的な変化に伴い、重要性が高まっているPBL（問題解決型学習）。 この科目では株式会社マイナビの提供する「課題解決プロジェクト」を活用する。 企業から出された課題に授業内で取り組みます。</p> <p>8 企業の採用選考手法 企業はなぜ人を採用するのか？ 採用する際にはどんな視点で学生を判断しているのか？ 企業側の立場に立って考えるワークを実施します。 また、資料請求（プレエントリー）から採用内定に至るまでのプロセスを洗い出します。</p> <p>9 筆記試験対策① 採用選考の中でも、近年その重要度が増しているのが「筆記試験」です。 筆記試験にはどんなものがあるのか？ その種類と傾向についてお伝えします。</p> <p>10 筆記試験対策② 筆記試験の中で最もメジャーな「SPI3」について解説します。 また中間試験として、SPIの模擬テストを受験いただきます。</p> <p>11 企業へのアプローチ① エントリーとはなんだろう？エントリーシートはいつ出すもの？ エントリーとエントリーシートの概略についてお伝えします。</p> <p>12 企業へのアプローチ② エントリーシートの設問対策をします。 出題傾向によって、どのような回答があるのか。練習問題を通じて学びます。 作成したものはグループ内で共有とフィードバックを行います。</p> <p>13 履歴書作成と進路登録 愛知文教大学指定履歴書の作成と、進路登録票の記載をします。</p> <p>14 ささまざまな就職活動について知る 就職活動は画一的なものではなく、いまは非常に多様化しています。 多様化する就職活動の実態とを知り、次年度につなげます。</p> <p>15 総括 これまで2年間の学びの総括と、次年度以降の目標設定について確認します。</p>
教育成果の検証	<p>企業様との共同プロジェクト（Project Based Learning）を始めとしたグループワークでは、皆さんが社会に出てからの必要なスキルを身につけます。能動的な学びが必要となりますので、グループ分けはランダムで実施しましたが、最後まで意図の理解が進まなかったようです。 社会に出れば、知っているメンバーや仲の良いメンバーで仕事を進められることは稀です。この機会に「与えられた環境で、最大限の成果を残す」ためのワークになることを期待します。</p>
今後の展望	<p>相対的に予習と復習の時間が少なくなる科目ですので、本年度はレポートや課題等が増えます。 企業様とのプロジェクトも実施しますので、前期の学修を踏まえて時間外でもグループ学習を進めること。 毎月提出のキャリアポートフォリオ（月間PDCAシート）は継続的に活用するようにしてください。</p>
受講生へのメッセージ・留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ e-Mail: ogawa@abu.ac.jp ・ 授業時間外の質問は、オフィスアワーに研究室へ来訪ください。もしくはキャリアセンターでも対応いたします。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋期	1年	2	選択
担当教員			
小川現樹			
添付ファイル			

備考	ICT活用 <input type="checkbox"/> ICTを活用する フィールドワーク <input type="checkbox"/> フィールドワーク有 授業担当教員 <input checked="" type="checkbox"/> 実務家教員担当科目
----	---

ディプロマポリシーの到達目標	② 社会人としての基礎的な能力を習得する。
サブタイトル (副題・テーマ)	学ぶこと働くことを「考え」「実践する」
履修の要件	一般学生1年次【必修】科目 (4年次の「大学の学びとキャリア設計2」単位未修得者) ※留学生は、「キャリア入門」を選択。
授業の概要と目的	1. 授業の概要：大学教育を受ける上での基礎知識やスキルの習得、将来のキャリア形成と社会人としての基礎的な能力を養います。 2. 授業の目的：実際の学びが自己のキャリアにどのようなかかわるかを知る。 3. 授業の手法：講義、グループワーク・グループディスカッションを多用、小テスト 本授業は、企業での人事責任者であった教員が担当することで、より実践的な講義内容となる。 ※働くことをテーマにした授業ですので、【受講態度（ワーク・ディスカッションへの参画度など）と提出物】については特に厳しく評価します。 ※遅刻や途中退出を禁止します。 ※受講に相応しくない態度を取る学生は、その場で退出していただきます（出席扱いにはしません）。
事前学習及び事後学習	事前学習：予習・日々の新聞購読（2時間） 事後学習：生活に活かす工夫と月間PDCAシート（毎月提出）の継続活用（2時間）
学修到達目標	これまでの生活を振り返り、今後の活動計画に移すことができる 世の中の仕事について、業界・業種・企業・職種を広く理解できる キャリア理論の基礎的な項目を理解できる
成績評価の方法と基準	期末試験（30%）、プレゼンテーション・提出物（20%）、受講レポート（20%）、平常点（30%）
教科書（ISBN）	授業時に指示いたします
参考書	授業時に指示いたします
授業計画	1 オリエンテーションキャリアとは何か ・授業の進め方とClassroomについての解説 ・キャリアについての考え方をお伝えします 2 キャリアポートフォリオと自己分析 ・キャリアポートフォリオを用いて、過去の振り返りと卒業後の目標について考えます 3 目標設定とPDCAサイクル ・キャリアポートフォリオを用いて、目標設定を行います ・効率的に目標達成するための手法として、PDCAサイクルについてお伝えします 4 社会人基礎力を知る REASEC体感ワークを通じて、自身の職業観を知ります また社会人基礎力の概要をお伝えし、将来に向けて身に着けるべき力を学びます 5 社会人基礎力を活用する 社会人基礎力診断を実施し、自身の現在の能力を知る 足りない項目をどう伸ばすのか、十分な項目をさらには？を考えます。 6 コミュニケーションの基礎 社会が必要としているコミュニケーション能力とはどのようなものかを知る 7 コミュニケーションを活かす 前回学んだ内容を参考に、実践としてのグループワークを実施します。 またグループでのフィードバックを通じて、自らの現在の力を知る。 8 働く意義について知る なぜ働かなければならないのか。正社員や正職員として働くことと、非正規で働くことの違いはあるのか。将来への展望も合わせて学びます。 また動画を参照し、働く価値観についても触れます。

	9	世の中の仕事を知る① 業界とは？業種とは？企業とは？職種とは？ 社会の仕組みを知り、グループワークを通じて今後のキャリアプランについての構想を練る機会とします。
	10	世の中の仕事を知る② 世の中に存在するさまざまなビジネスモデルを知る機会とします。 民間企業のほか、官公庁、教育機関、公的機関についての理解も深めます。
	11	世の中の仕事を知る③ 具体的な企業のビジネスモデルを参考に、仕事についての理解を深めます。
	12	プレゼンテーションの基本 コミュニケーションツールとしてのプレゼンテーションですが、資料作成のみに偏って行くのはもったいない。資料以外の基本的な手法をお伝えし、今後のプレゼンテーションに活かします。
	13	将来のマネープランを考える VTRを参考にマネープランについて考える
	14	夢ノートを作る ・作成した夢ノートの内容をグループで共有、プレゼンテーションすることで、より明確なものにする
	15	まとめ、夏休みの活動計画作成 ・休み中の目標設定と活動計画 ・月間PDCA実践シートの活用 ・全体のまとめ
教育成果の検証	新規科目のため、無し	
今後の展望	グループワークやスライドを活用した、みなさんに参加いただける授業にします。 積極的に関わるようにしてください。 月間PDCAシートは継続活用いたします。	
受講生へのメッセージ・留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ e-Mail: ogawa◇abu.ac.jp (◇を@にかえて送信してください) ・ 授業時間外の質問は、オフィスアワーに研究室へ来訪ください。もしくはキャリアセンターでも対応いたします。 	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春期	2年	2	選択
担当教員			
佐藤 まみ			
添付ファイル			

備考	ICT活用 <input type="checkbox"/> ICTを活用する フィールドワーク <input type="checkbox"/> フィールドワーク有 授業担当教員 <input checked="" type="checkbox"/> 実務家教員担当科目
----	---

ディプロマポリシーの到達目標	社会人としての基礎的な能力を習得する
----------------	--------------------

サブタイトル(副題・テーマ)	就職にも役立つ「おもてなし・心・美」がある接客知識を身につける
----------------	---------------------------------

履修の要件	特になし
-------	------

授業の概要と目的	1. 授業の概要：日本には日本独特のマナーがありますが、その中で相手の心を思いやる「おもてなし」の心の在り方や、社会に出て仕事をする上でのプロの姿勢をわかりやすく学びます。講師はANA全日空にて地上勤務員、研修講師の経験を元に、型にハマった知識だけでなく、実践を踏まえながら、自身で考え、行動ができるようにしていきます。 2. 授業の目的：日本での就職にて必要なマナーの基本（ビジネスマナー・就職面接対策・一般常識）を身につけ、就職をするうえで応用することができます。 3. 授業の手法：サービス接客検定のテキストを参考に、グループワークや発表を含め、コミュニケーション力、実践に重きを置きます。
----------	--

事前学習及び事後学習	事前学習：日常生活の中で意識すること（2時間） 事後学習：本講義で学んだスキルを学生生活やアルバイトで活かして下さい（2時間）
------------	--

学修到達目標	学生生活において学んだ知識を活かし、日本での就職にて必要なマナーの基本習得を目標とします。また「サービス接客検定」試験を受験したい人に応用することができます。
--------	---

成績評価の方法と基準	平常点（授業中の取り組み方）30%、期末試験30%、レポート課題 20%、プレゼン 20%
------------	---

教科書（ISBN）	サービス接客検定3・2級（翔泳社 著者：西村このみ）ISBN：9784798132556
-----------	--

参考書	授業にて適宜指示する
-----	------------

授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業オリエンテーション/目的マナーについて 講師挨拶と一年間の予定についての案内、ビジネスマナーを学ぶ意義と必要性について 2 マナーの基本①身だしなみ 好感的持てる身だしなみについて学びます 3 マナーの基本②挨拶・立ち居振る舞い・表情 基本の挨拶とお辞儀の種類、立ち居振る舞い、表情の作り方について 実践もふまえて 4 マナーの基本③言葉遣い1 聞き取りやすい声の作り方からビジネスマナーにおいて必要不可欠な言葉遣いのまずは基本から 5 マナーの基本④言葉遣い2 社会人として知っておきたい言葉遣いをロールプレイングも取り入れながら学ぶ 6 マナーの基本⑤言葉遣い3 お客様に求められる言葉遣いとは 7 マナーの基本⑥丁寧な言葉遣い1 様々なサービスを提供する場面を想定しながらシミュレーションごとにより丁寧な言葉遣いを知る 8 マナーの基本⑦丁寧な言葉遣い2 様々なサービスを提供する場面を想定しながらシミュレーションごとにより丁寧な言葉遣いを知る 9 電話の基本1 会社の顔ともいえる電話の応対について基本からレクチャーします 10 電話の基本2 シチュエーションごとに練習をしていきます。イレギュラーにも対応できるようになりましょう 11 メールマナー
------	---

	<p>知らずに送ってしまうと相手に失礼があったり誤解を与えてしまうことがあります。マナーを守った形式を知っていきます。</p> <p>12 名刺交換 名刺交換のマナーを知ることで、相手に対する印象が変わってきます。迷いやすい交換のルールを知ってスムーズにできるように練習していきます。</p> <p>13 席次・来客案内・席次 礼儀の一つとして、席次の位置、お客様の案内についてなど、細かな部分まで丁寧にお伝えしていきます。</p> <p>14 社交業務 知っておきたい慶事、お悔やみ、一般知識について</p> <p>15 総復習 これまでの総復習として総合的にお伝えしていきます</p>
教育成果の検証	新規担当のため該当せず
今後の展望	実は身近にあるおもてなしの極意を知って頂きながら、実用化できるようにきめ細かくお伝えしていきます。
受講生へのメッセージ・留意事項	授業終了後に教室にて受け付けます

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋期	なし	2	選択
担当教員			
辻・藤本・鈴木・沢田・小川			
添付ファイル			

備考	ICT活用 □ICTを活用する フィールドワーク ■フィールドワーク有 授業担当教員 ■実務家教員担当科目
ディプロマポリシーの到達目標	社会人としての基礎的な能力を習得する。
サブタイトル(副題・テーマ)	観光資源の特性を理解し、市民生活において発展的かつ持続的に融合させていく手法について学修する。
履修の要件	フィールドワークに参加し、プレゼンテーションを行うこと。なお、フィールドワークにかかる費用(交通費、食費など)は履修者負担とする。定員30名とする。
授業の概要と目的	本講義は観光資源開発と地域創生について、観光資源の歴史性を理解し、それを市民生活に導入して現代的な地域文化を持続的に創生していく手法について学修することを目指します。実務経験者を講師として展開し、前半で愛知県半田市の成功事例から知見を獲得し、後半ではそれに基づき本学が地域連携する小牧市における地域創生プランを構築します。 講義前半は、半田市の観光開発と地域創生に関わる行政、伝統文化の継承者、NPO、企業の各視点から展開する。まず、住みたい街づくりをコンセプトに、観光資源をどのように市民の暮らしに生かしていくかについて、行政の視点から、「まちの個性と魅力の形成」を行うための「基本理念」を解説し、事例で理解を深める。ついで、市民の生活と乖離した観光施策について悪い事例について見ていく。さらに、歴史的な景観やユネスコ無形文化遺産(潮干祭)などを維持しつつ観光資源として市民生活に融合させていくか検討する。次いで、観光資源をどのようにPRし、市民の理解と協働に結びつけるかについて、NPOの活動について解説する。そして地域に根を張った企業の取り組みについて、ミツカンの活動事例によって理解を深める。これらの学修の各過程では、講師から出された課題についてグループや個人で検討し、報告を課す。 講義後半は、こうした学修を踏まえて、小牧市シティプロモーション課の施策を理解した上で、小牧市の特性を生かした地域創生プランの構築を目指して、フィールドワークを実施し、PBL(問題解決型学修)の成果としてプレゼンテーションを行う。
事前学習及び事後学習	事前学習：インターネットを使って半田市のホームページなどで講義のトピックについて調べておく(0.5時間)。フィールドワークに備えて、小牧市の研修地について調べておく(1時間)。プレゼンテーション資料作成(5時間) 事後学習：講義内容を整理し、課題に取り組む(1時間)。プレゼンテーションのための資料を収集し、プラン構築の準備を行う。(1時間)。
学修到達目標	観光資源開発とPR、市民への還元といった観光と地域創生の結びつきについて、伝統文化の保護と地域開発を視座に、行政、NPO、企業それぞれの立場から理解すること。観光資源の観光開発において看過されがちな歴史性や地域の特性、市民への貢献に注視しながら、市民の暮らしにどのように息づかせ、どうしたら住みたい街を作れるか、実際の現場から学び、観光開発と地域創生における様々な課題について意見が持てるようになることを目的とする。
成績評価の方法と基準	5名の教員によるオムニバス形式による講義のため、各教員による評価(20%)を総合し合計100%として評価する。評価対象：レポート課題/プレゼンテーション/演習課題および授業への貢献度(積極的な発言)。 *履修条件にあるように、半田市・小牧市におけるフィールドワークを欠席した場合は成績評価の対象としない。なおフィールドワークの実施が困難な場合は、代替措置をとる。
教科書(ISBN)	教科書は指定せず、プリントを配布して使用する。
参考書	授業中に適宜紹介する。
授業計画	第1回 インTRODクシヨン(辻) 講義概要と進め方 <9/17> 第2回 まちの個性と魅力の形成—行政の視点から：まちの成り立ちと個性<事例1> (藤本) 亀崎潮干祭とはんだ山車まつり <9/24> 第3回 まちの個性と魅力の形成—行政の視点から：まちの成り立ちと個性<事例2> (藤本) (1)半田運河の盛衰と復活 (2)赤レンガ建物 対立と保存、活用 <10/1> 第4回 まちの個性と魅力の形成—行政の視点から：まちの成り立ちと個性<事例3> (藤本) 事例3 新美南吉と彼岸花 <10/8> 第5回 観光資源開発とPR—NPOの視点から1 (鈴木) 半田市の観光資源をどうPRしてきたか <10/15> 第6回 観光資源開発とPR—NPOの視点から2 (鈴木)

	<p>半田市の観光資源をどうPRしていくか <10/22></p> <p>第7回 ミツカンと半田と観光振興一企業の視点から1 (沢田) ミツカン創業から現在 <10/29></p> <p>第8回 ミツカンと半田と観光振興一企業の視点から2 (沢田) ミツカン現在から未来 <11/5></p> <p>第9回 フィールドワーク1 (半田市) (1) 半田市における実例見学 <11/6> (2) 報告書の提出 (半田市観光協会)</p> <p>第10回 小牧市・愛知文教大学と地域創生：イントロダクション (小川) (1) 小牧市について (2) ワークシート作成 <11/19></p> <p>第11回 小牧市シティープロモーションについて (小川・小牧市シティープロモーション課) 小牧市シティープロモーション <11/26></p> <p>第12回 フィールドワーク2 (小牧市) (小川) 小牧市における見学・調査<11/27></p> <p>第13回 (1) プレゼンテーションスキル (2) グループワーク (小川) (1) 効果的なプレゼンテーションと判定基準 (2) 企画書概要についてセッション<12/3></p> <p>第14回 プレゼンテーション準備 (小川) (1) 企画概要発表 (2) プレゼンテーション準備<12/10> プレゼンテーション (小川・辻) 「小牧市・愛知文教大学と地域創生」企画：プレゼンテーション<12/17></p>
教育成果の検証	2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、当初予定していた半田市のフィールドワーク時の見学地の変更や、小牧市における実施中止などを余儀なくされた。しかしながら、学生は半田市における実施範囲内において、また小牧市においては代替措置として教員が撮影した見学地のビデオなどや、実務家の招聘などにより多くの知見や示唆を得ることができたと考える。その成果は、限られた時間内に作成したプレゼンテーションの中でも伺うことができた。しかしながら、テーマ設定、資料収集、資料作成などにおいて大学生レベルに達しないものもあり、基本的な作業についても十分な時間を取って指導する必要があると考える。
今後の展望	多彩な実務家教員による授業を通して、具体事例に基づく観光と地域創生の有り様を肌で感じ、自らが自治体や地域の企業家の立場に立って地域の創生事業を企画できる、就職に直結した講義になることを目指したい。
受講生へのメッセージ・留意事項	講義での学修が就活など、皆さんの将来に生かせるように、しっかり歴史性や地域の特性、市民への還元と定着の観点から推進される観光資源開発とその活用の現場から学びましょう。 授業時間外での質問等にはオフィスアワーに対応する。学外講師への質問は当該講義後に直接聞くか、辻が取りまとめます。メール：ktsuji4360@abu.ac.jp (◇を@にかえて送信してください)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春期	なし	2	選択/専攻選択必修
担当教員			
馬燕			
専門科目群	CHN306	講義・単独	
添付ファイル			

備考	ICT活用 <input type="checkbox"/> ICTを活用する フィールドワーク <input type="checkbox"/> フィールドワーク有 授業担当教員 <input checked="" type="checkbox"/> 実務家教員担当科目
----	---

ディプロマポリシーの到達目標	6) 中国語による実践的コミュニケーション能力を習得する。
サブタイトル (副題・テーマ)	中国語による観光実務をこなす基礎力の習得
履修の要件	中級中国語 (HSK3級) 課程経験者が原則 国際日本コース：N2以上の日本語能力を証明できる者のみ履修可
授業の概要と目的	1. 授業の概要：日本国内の観光関連の業務に就いた際に必要になる中国語運用能力を場面別に学ぶ。 2. 授業の目的：観光業で想定される場面取り上げ、要領よく相手に説明し、理解してもらえるよう、実践的な会話練習をさせ、中国語で伝える能力を身につけてもらう。 3. 授業の手法：教科書、音声CDなどを使用して観光に関連する語彙力、聴解力、読解力、文章を書く力、会話力を伸ばす。
事前学習及び事後学習	事前学習：教科書は予習してあることを前提に授業を進めるので、必ず指示された箇所を予習してから授業に臨むこと。(2時間) 事後学習：授業で学習した内容を、次の授業までに何度も読み、実際に声を出して復習して定着させる。(2時間)
学修到達目標	中国語を自由に操り、日本の文化・習慣を紹介し、名所旧跡めぐりやショッピングなどの様々な場面で来日した中国人をガイドする能力を養うことを学習到達目標とする。
成績評価の方法と基準	平常点・発表 (15%)、中間試験 (15%)、期末試験 (70%)
教科書 (ISBN)	塚本慶一・芳沢ひろ子著『中国語で案内する日本』(研究社) 2015年 (ISBN:978-4-327-39430-1)、1980円
参考書	授業中に適宜指示する。

授業計画	第1回 ガイダンス ①授業の進め方や成績評価の方法などについての説明 ②教科書の紹介 ③ガイドの基本フレーズの学習 第2回 状況別ダイアログ(1) 朝食に生卵が出た ①会話本文の音読 ②会話本文の翻訳 ③ロールプレイ演習 第3回 状況別ダイアログ(2) 日本の中国料理店 ①会話本文の音読 ②会話本文の翻訳 ③ロールプレイ演習 第4回 状況別ダイアログ(3) 神戸牛を食べる ①会話本文の音読 ②会話本文の翻訳 ③ロールプレイ演習 第5回 状況別ダイアログ(4) 荷物を置きっぱなしで注文に行った！ ①会話本文の音読 ②会話本文の翻訳 ③ロールプレイ演習 第6回 状況別ダイアログ(5) 日本の宴席で ①会話本文の音読 ②会話本文の翻訳 ③ロールプレイ演習 第7回 状況別ダイアログ(6) 都庁の食堂って入れるんだ！ ①会話本文の音読 ②会話本文の翻訳 ③ロールプレイ演習
------	---

第8回	中間試験 中間試験（60分）、終了後に試験のポイントを確認。
第9回	状況別ダイアログ(7) 相撲部屋見学 ①会話本文の音読 ②会話本文の翻訳 ③ロールプレイ演習
第10回	状況別ダイアログ(8) 富士山が見えない！ ①会話本文の音読 ②会話本文の翻訳 ③ロールプレイ演習
第11回	状況別ダイアログ(9) 渋谷のスクランブル交差点を上から眺めてみた ①会話本文の音読 ②会話本文の翻訳 ③ロールプレイ演習
第12回	状況別ダイアログ(10) 北海道でスキーを楽しむ ①会話本文の音読 ②会話本文の翻訳 ③ロールプレイ演習
第13回	状況別ダイアログ(11) 浅草観光 ①会話本文の音読 ②会話本文の翻訳 ③ロールプレイ演習
第14回	状況別ダイアログ(12) ドラッグストアで ①会話本文の音読 ②会話本文の翻訳 ③ロールプレイ演習
第15回	総復習 既習内容に関する総まとめと確認
教育成果の検証	新任のため該当事項なし
今後の展望	新任のため該当事項なし
受講生へのメッセージ・留意事項	来日した中国人に日本をよく知ってもらい、日本への親しみを持ってもらえるような「民間外交官」になれる基礎力を身につけましょう。 質問は講義中、講義後、またオフィスアワーに研究室で受け付けます。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春期集中講義	なし	2	選択
担当教員			
栗木智美			
		演習・単独	
添付ファイル			

備考	ICT活用 ■ICTを活用する フィールドワーク □フィールドワーク有 授業担当教員 ■実務家教員担当科目
----	--

ディプロマポリシーの到達目標	④比較文化的かつ柔軟な発想および多文化共生に必要な教養と視野を習得する。
----------------	--------------------------------------

サブタイトル(副題・テーマ)	国語の教科書古典教材を読む
----------------	---------------

履修の要件	国語科の教育免許取得志望者は積極的に受講すること。
-------	---------------------------

授業の概要と目的	授業の概要 1. 授業の概要：本授業は、学校教育の実践的理解を深めることを目指すものである。国語科の教科書に掲載されている古典文学作品を取り上げ、教材研究および作品の意義について考察する。 2. 授業の目的：本授業では、中学校国語科教科書をテキストとし、受講者とともに読みながら、学習指導要領に示された教科における古典学習の目標や内容を理解する。 3. 授業の手法：受講者主体でプロジェクト学習を行いながら、受講者の発表形式を主とする。
----------	---

事前学習及び事後学習	事前学習：教科書や教材に目を通し、関連する資料を収集する。教材の下調べを行い、演習の準備を行う。(予習時間各2時間) 事後学習：授業内で指摘された点について反省し、ふりかえりを行う。(復習時間各2時間)
------------	--

学修到達目標	・教材の価値と効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。 ・背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。
--------	--

成績評価の方法と基準	発表50% 平常点(質疑態度)20% 定期テスト(発表内容を文章化する)30%
------------	---

教科書 (ISBN)	1 令和3年度版中学校国語1(教科書)光村図書出版 ISBN978-4-8138-0111-5 2 令和3年度版中学校国語2(教科書)光村図書出版 ISBN978-4-8138-0112-2 3 令和3年度版中学校国語3(教科書)光村図書出版 ISBN978-4-8138-0113-9
------------	---

参考書	1 令和3年度版中学校国語1・2・3(指導書)光村図書出版(担当者で用意) 2 授業時に適宜紹介する
-----	---

授業計画	1 ガイダンス 概説 授業について・中学校国語古典学習について 2 演習準備 教材選定・教材研究について 3 中1古典教材分析 プロジェクト学習1-1 中学校1年古典教材についての分析・考察(1) 4 中1古典教材考察 プロジェクト学習1-2 中学校1年古典教材についての分析・考察(2) 5 中1古典教材発表 中学校1年古典教材についての発表 6 中1古典教材検討 中学校1年古典教材についての検討 7 中2古典教材分析 プロジェクト学習2-1 中学校2年古典教材についての分析・考察(1) 8 中2古典教材考察 プロジェクト学習2-2 中学校2年古典教材についての分析・考察(2) 9 中2古典教材発表 中学校2年古典教材についての発表 10 中2古典教材検討 中学校2年古典教材についての検討
------	--

	<p>1 1 中3 古典教材分析 プロジェクト学習 3-1 中学校3年古典教材についての分析・考察（1）</p> <p>1 2 中3 古典教材考察 プロジェクト学習 3-2 中学校3年古典教材についての分析・考察（2）</p> <p>1 3 中3 古典教材発表 中学校3年古典教材についての発表</p> <p>1 4 中3 古典教材検討 中学校3年古典教材についての検討</p> <p>1 5 総括 中学校古典教材における学びに関する総括討議</p>
教育成果の検証	新設科目のため該当なし
今後の展望	<p>○対面であっても、オンラインであっても、協同学習を行う。</p> <p>○中学校現場は一人一台情報端末が導入されている。国語科教育においてもその活用が必要となる。これからの教育を担う学生にも、その利活用が必然であるため、対面授業であっても情報端末を活用した授業を行う。</p> <p>○毎時間グループを用いたプロジェクト学習を実施し、主体的・対話的で深い学びを図る。</p>
受講生へのメッセージ・留意事項	<p>GoogleClassroomを活用すること。</p> <p>毎時間情報端末を用いた協働学習を実施するため、タブレットまたはノートパソコンを用意すること。</p> <p>授業ではプロジェクト学習を実施予定。各自課題を持ち、主体的に臨むこと。</p> <p>講師のメールアドレスなどは授業で連絡する。</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
春期	2年	2	選択
担当教員			
栗木智美			
		講義・単独	
添付ファイル			

備考	ICT活用 <input checked="" type="checkbox"/> ICTを活用する フィールドワーク <input type="checkbox"/> フィールドワーク有 授業担当教員 <input checked="" type="checkbox"/> 実務家教員担当科目
----	--

ディプロマポリシーの到達目標	⑩ 実践的な教育技能と社会的な力を習得する。
----------------	------------------------

サブタイトル (副題・テーマ)	国語科教員としての授業実践力養成
-----------------	------------------

履修の要件	履修者は教職課程を選択し、中学校・高等学校国語科教員免許取得を目指す者
-------	-------------------------------------

授業の概要と目的	1、概要 国語科教育の基本的な考え方や目的・内容・方法・評価について学ぶ。 2、目的 中学校・高等学校において国語の授業をするうえで、必要な国語教育の基礎的知識を習得する。 3、方法 グループワークを用いて互いに高め合いながら、教材の価値やそれを用いての授業作りを検討する。
----------	---

事前学習及び事後学習	事前学習：教科書や教材に目を通し、関連する資料を収集する。教材の下調べを行い、指導案・模擬授業の準備を行う。(予習時間各2時間) 事後学習：授業内で指摘された点について反省し、ふりかえりを行う。(復習時間各2時間)
------------	--

学修到達目標	中学校国語授業国語科教師の力量を高めるための、国語科教育の理論を理解し、授業へのイメージをもつことができる。 中学校国語科教科書の文学教材を用いて、授業を創造することができる。
--------	---

成績評価の方法と基準	平常点(模擬授業含む)30%、課題(教材研究・指導案等)50%、期末試験20% 評価基準…①中学校・高等学校の新学習指導要領について理解している。②中学校・高等学校国語科教材研究及び学習指導案作りについて理解している。③学習指導案を元に授業を創造し、模擬授業を実践している。④提出物等を期日までに提出している。
------------	--

教科書 (ISBN)	1 新たな時代の学びを創る中学校・高等学校国語科教育研究 全国大学国語教育学会著 東洋館出版社 2, 200円(税別) ISBN978-4-491-04767-7 2 中学校学習指導要領解説国語編 文部科学省 317円(税別) ISBN978-4-491-03470-6 3 中学校国語3(教科書)光村図書出版 ISBN978-4-8138-0113-9
------------	--

参考書	中学校国語3(指導書)・担当者で適宜準備
-----	----------------------

授業計画	1 ガイダンス 授業ガイダンスと自己紹介 2 新学習指導要領の探究 プロジェクト学習1-1 2021年度完全実施の学習指導要領の概略・国語科の目的・評価等を探究する。 3 新学習指導要領の検討 プロジェクト学習1-2 2021年度完全実施の学習指導要領の概略・国語科の目的・評価等を発表・検討する。 4 主体的・対話的で深い学びの探求 プロジェクト学習2-1 主体的・対話的で深い学びとはどのような学びかを映像から探究する。 5 主体的・対話的で深い学びの検討 プロジェクト学習2-2 主体的・対話的で深い学びとはどのような学びかを映像から探究する。 6 国語科授業の計画 教材研究の方法 学習指導案の概略 7 文学教材研究-詩歌-1 文学教材(詩歌)を教材研究する。 8 文学教材研究-詩歌-2 プロジェクト学習3-1 文学教材の中から詩歌を選択し、教材研究する。 9 文学教材研究-詩歌-2
------	---

	<p>プロジェクト学習 3-2 教材研究を発表し、検討する。</p> <p>1 0 文学教材研究-小説-1 プロジェクト学習 4-1 文学教材の中から、小説を選択し、教材研究する。</p> <p>1 1 文学教材研究-小説-2 プロジェクト学習 4-2 教材研究を発表し、検討する。</p> <p>1 2 学習指導案 1 学習指導案の書き方を学ぶ</p> <p>1 3 学習指導案 2 学習指導案のうち単元観を作成する。</p> <p>1 4 GIGAスクール構想 GIGAスクール構想を理解し、国語科におけるICT活用を探究する。</p> <p>1 5 総括 中学校国語科における学びに関する総括討議</p>
教育成果の検証	<p>○中学校現場での授業映像を用いることで、これからの国語科教育へのイメージをもち、2021年度完全実施の新学習指導要領の目指すところへの理解を深めた。</p> <p>○主体的に学びに向かう生徒を育てる教員になるには、まずは自信が主体的になることが求められる。毎時間の授業でふり返りを記入して提出。仲間のふり返りと授業者のコメントも公開して、互いの気づきや学びを交流した。それによって自分一人では気づかなかった新たな学びが生まれた。</p> <p>○オンライン授業が中心であったが、ブレイクアウトセッションを利用し、毎時間グループでの活動を繰り返した。教材研究は対象教材を選択し、同教材を選択した者同士で協同学習を行った。思考とアウトプットの繰り返しにより、主体的・対話的に学ぶ学生が多かった。</p>
今後の展望	<p>○対面であっても、オンラインであっても、前年度実施した協同学習を継続する。</p> <p>○中学校現場は一人一台情報端末が導入されている。国語科教育においてもその活用が必要となる。これからの教育を担う学生にも、その利活用が必然であるため、対面授業であっても情報端末を活用した授業を行う。</p> <p>○毎時間グループを用いたプロジェクト学習を実施し、主体的・対話的で深い学びを図る。</p>
受講生へのメッセージ・留意事項	<p>GoogleClassroomを活用する。</p> <p>毎時間情報端末を用いた協働学習を実施するため、タブレットまたはノートパソコンを用意すること。</p> <p>授業ではプロジェクト学習を実施予定。各自課題を持ち、主体的に臨むこと。</p> <p>講師のメールアドレスなどは授業で連絡する。</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
秋期	2年	2	選択
担当教員			
栗木智美			
		講義・単独	
添付ファイル			

備考	ICT活用 <input checked="" type="checkbox"/> ICTを活用する フィールドワーク <input type="checkbox"/> フィールドワーク有 授業担当教員 <input checked="" type="checkbox"/> 実務家教員担当科目
----	--

ディプロマポリシーの到達目標	⑩ 実践的な教育技能と社会的な力を習得する。
サブタイトル (副題・テーマ)	国語科教員としての授業実践力養成
履修の要件	履修者は国語科教育法Ⅰの単位を修得していること。
授業の概要と目的	1、概要 国語科教育の基本的な考え方や目的・内容・方法・評価について学ぶ。 2、目的 中学校・高等学校において国語の授業をするうえで、必要な国語教育の基礎的知識を習得する。 3、方法 グループワークを用いて互いに高め合いながら、教材の価値やそれを用いての授業作りを検討する。
事前学習及び事後学習	事前学習：教科書や教材に目を通し、関連する資料を収集する。教材の下調べを行い、指導案・模擬授業の準備を行う。(予習時間各2時間) 事後学習：授業内で指摘された点について反省し、ふりかえりを行う。(復習時間各2時間)
学修到達目標	中学校国語授業国語科教員の力量を高めるための、国語科教育の理論を理解し、授業へのイメージをもつことができる。 中学校国語教科書の文学教材を用いて、授業を創造することができる。
成績評価の方法と基準	平常点(模擬授業含む)30%、課題(教材研究・指導案等)50%、期末試験20% 評価基準…①中学校・高等学校の新学習指導要領について理解している。②中学校・高等学校国語科教材研究及び学習指導案作りについて理解している。③学習指導案を元に授業を創造し、模擬授業を実践している。④提出物等を期日までに提出している。
教科書 (ISBN)	1 新たな時代の学びを創る中学校・高等学校国語科教育研究 全国大学国語教育学会著 東洋館出版社 2, 200円(税別) ISBN978-4-491-04767-7 2 中学校学習指導要領解説国語編 文部科学省 317円(税別) ISBN978-4-491-03470-6 3 中学校国語3(教科書) 光村図書出版 ISBN978-4-8138-0113-9
参考書	中学校国語3(指導書)・担当者で適宜準備
授業計画	1 話すことの授業構想1 プロジェクト学習1-1 話すことの授業を構想する。 2 話すことの授業構想2 プロジェクト学習1-2 構想した話すことの模擬授業を行う。 3 書くことの授業構想1 プロジェクト学習2-1 書くことの授業を構想する。 4 書くことの授業構想1 プロジェクト学習2-1 構想した書くことの模擬授業を行う。 5 説明的文章教材の研究1 プロジェクト学習3-1 説明的文章教材の中から説明文の教材研究を行う。 6 説明的文章教材の研究2 プロジェクト学習3-2 説明的文章教材の中から説明文の教材研究を発表・検討する。 7 説明的文章教材の研究2 プロジェクト学習4-1 説明的文章教材の中から評論文の教材研究を行う。 8 説明的文章教材の研究2 プロジェクト学習4-2 説明的文章教材の中から評論文の教材研究を発表・検討する。

	<p>9 模擬授業 1 模擬授業の準備をする。</p> <p>10 模擬授業 2 受講者それぞれの選択教材に即した模擬授業を行うため、内容は発表者による春期・秋期に教材研究した教材を用いて、導入部分の模擬授業を行う。指導・検討。</p> <p>11 模擬授業 3 受講者それぞれの選択教材に即した模擬授業を行うため、内容は発表者による春期・秋期に教材研究した教材を用いて、導入部分の模擬授業を行う。指導・検討。</p> <p>12 模擬授業 4 受講者それぞれの選択教材に即した模擬授業を行うため、内容は発表者による春期・秋期に教材研究した教材を用いて、導入部分の模擬授業を行う。指導・検討。</p> <p>13 模擬授業 5 受講者それぞれの選択教材に即した模擬授業を行うため、内容は発表者による春期・秋期に教材研究した教材を用いて、導入部分の模擬授業を行う。指導・検討。</p> <p>14 学習指導案 1 プロジェクト学習 5-1 模擬授業を行った教材で、1時間分の学習指導案を作成する。</p> <p>15 学習指導案 2 プロジェクト学習 5-2 模擬授業を行った教材で、1時間分の学習指導案を作成・検討する。</p>
教育成果の検証	<p>○中学校現場での授業映像を用いることで、これからの国語科教育へのイメージをもち、2021年度完全実施の新学習指導要領の目指すところへの理解を深めた。</p> <p>○主体的に学びに向かう生徒を育てる教員になるには、まずは自信が主体的になることが求められる。毎時間の授業でふり返りを記入して提出。共有シートを用いて作成することで仲間のふり返りと授業者のコメントも公開し、互いの気づきや学びを交流した。それによって自分一人では気づかなかった新たな学びが生まれた。</p> <p>○オンライン授業が中心であったが、ブレイクアウトセッションを利用し、毎時間グループでの活動を繰り返した。教材研究は対象教材を選択し、同教材を選択した者同士で協同学習を行った。思考とアウトプットの繰り返しにより、主体的・対話的に学ぶ学生が多かった。</p>
今後の展望	<p>○対面であっても、オンラインであっても、前年度実施した協同学習を継続する。</p> <p>○中学校現場は一人一台情報端末が導入されている。国語科教育においてもその活用が必要となる。これからの教育を担う学生にも、その利活用が必然であるため、対面授業であっても情報端末を活用した授業を行う。</p> <p>○毎時間グループを用いたプロジェクト学習を実施し、主体的・対話的で深い学びを図る。</p>
受講生へのメッセージ・留意事項	<p>GoogleClassroomを活用する。</p> <p>毎時間情報端末を用いた協働学習を実施するため、タブレットまたはノートパソコンを用意すること。</p> <p>授業ではプロジェクト学習を実施予定。各自課題を持ち、主体的に臨むこと。</p> <p>講師のメールアドレスなどは授業で連絡する。</p>